



上海市政府機関へ新旧理事長が訪問

春節を間近に控えた1月30日に小川良典・新理事長(丸紅(上海)有限公司 董事長・総経理)と小宮健一・前理事長(東京海上日動火災保険(中国)有限公司 董事長・総経理)が揃って上海市商務委員会、上海市社会团体管理局、上海市公安局出入境管理局に新旧交代あいさつの訪問をした。

上海市商務委員会

商工クラブの業務を指導する商務委員会では、外事処の羅志松処長が対応した。小宮前理事長から、昨年は日中平和友好条約締結40周年記念イベントや上海市政府関係者と日本企業関係者との座談会でお世話になったことの謝意が述べられ、小川新理事長にバトンタッチしたことが報告された。

羅処長は、これまで商工クラブと商務委員会が長年にわたり協力関係を構築してきたことを評価し、また、日中関係が好転してきた2016年後半からは日系企業の投資も戻ってきており、これからの更なるビジネスの発展への期待を述べた。

小川理事長から、一層のビジネス環境改善を図るため、昨年の上海市と日本側との座談会で設置さ



上海市商務委員会訪問(2019/01/30)

れた情報共有と意思疎通のための調整メカニズムを活用していきたいとの発言があり、羅処長からも投資環境などへの意見や提案はこれまで以上に歓迎するとのことであった。

なお、今年の上海市の重点施策として、羅処長から3点が挙げられた。①長三角(長江デルタ)の一体的開発、②自貿区の発展・拡大、③2回目の輸入博の成功。また、羅処長は今年の景気見通しは厳しいものの、地方での自動車購入や家電品買い替えへの消費振興策が予定されていると強調した。

上海市社会团体管理局

社会团体管理局(社团局)の蔣蕊局長と面談した。蔣局長から、現在は民政局と社会团体管理局での内部調整が行われていることの説明があった。民政局では個人の福祉関連を管轄し、社团局では社会組織を管轄することになるとのこと。

小宮理事長の発言に続き、小川理事長から、これまでの商工クラブの社会貢献活動について若干の説明とともに、今後も社会貢献活動を継続していくことが報告された。

また、蔣局長から商工クラブの法

人格登記は、15年間テストケースとして継続しているが、日中交流の重要なプラットフォームとなっていると評価するとともに、これから急速に高齢化する上海市社会に対する日本企業の貢献への期待が述べられた。

上海市公安局出入境管理局

外国人管理処の叶駿処長が対応し、商工クラブとは長年の良い関係を構築していること、また、総領事館、日系メディア、日系企業とも関係を有しており、何等かの問題が起きた場合には、忌憚なく相談してほしいとのことであった。叶処長は、昨年の輸入博では、公安も多忙であったが、今年は建国70周年、上海モーターショー、2回目の輸入博と大きなイベントも多い、また、上海へ来る外国人も多くなるだろうとの見通しを述べた。

終わりに

本来であれば上海市対外友好協会にも訪問する予定であったが、两会(上海市人民代表大会と政治協商会議)の開催中で対外友協も多忙な時期であることから、今回の訪問は見送った。



上海市入国管理局訪問(2019/01/30)